# 清泉女子大学発展協力会
# 活動のご報告

2020 年 6 月

新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けた学生に対し、
緊急支援を行っています。皆様のご支援をお願い申し上げます。


発展協力会会長挨拶　2
【学生の報告】チャレンジ支援奨学金　3
2020 年度寄付金の使途予定　5
2019 年度寄付金の使途　6



**発展協力会事務局**
Tel 03-3447-5551
Email hatten@seisen-u.ac.jp
https://www.seisen-u.ac.jp

平素は発展協力会の諸活動にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

## 2019 年度の活動報告

皆様のご厚志のおかげで、学生の自己啓発、社会奉仕、異文化交流、専攻や将来の進路選択のための実地調査など、様々な活動・挑戦を支援することができました。これからも一人でも多くの学生が自分の可能性を広げていけるよう後押ししてまいりますので、どうぞ発展協力会への変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 新型コロナウイルス感染症蔓延に係る学生支援

本学でも様々な行事が中止されるなど影響が広がっております。当会も大学と歩調をあわせ、支援を必要とする学生に対し「オンライン授業のための自宅学習環境支援」と「生活面の支援」を行います。つきましては会員の皆様の格別なるご配慮を頂きたく、ご無理のない範囲でご支援を賜ることができましたら幸甚に存じます。

## 卒業生の力と発展協力会

昨年 11 月、ある卒業生とお話しする機会がありました。話が学生時代に及ぶにつれ母校への関心の高さを感じました。一方で、後退しているとお感じになった母校の変化には厳しいご指摘を頂きましたが、私にはこれこそが卒業生の力だなと嬉しくなりました。

現在、新型コロナウイルス蔓延の危機の中、事態が収束すれば以前のような日常生活が戻って来ると期待する人が多いと想像しますが、全ての人に平等に戻るとは思えません。世の中を見回すと、実は既に大小様々な危険に人々は囲まれていて、「明日は我が身」のような状態であることに気づかされます。人類共通の敵がこれ程出揃った状況で、いつまでも各国が張り合っている時ではないと思います。

同様のことは日本国内でも明らかで、いつまでも皆が一斉にネームヴァリューをめざすことにエネルギーを注いでいるような場合ではありません。手遅れになる前に解決しなければいけないことが山ほどあるこの時代こそ、清泉での教育と学びが受け入れられ、世の中を良い方向へと導くエンジンの一つになるのだと密かに思っています。しかし、そのエンジンとしての働きを全て今の学生世代に背負わせるのは酷というものでしょう。清泉 70 年の歴史を作り上げてきた卒業生のお力を借りながら、共に前進できたらどんなに素晴らしいことかと思います。今後とも卒業生をはじめとする皆様のお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

発展協力会会長
経塚（きょうづか）　淳（じゅん）

**文化史学科 2 年　海老塚　紅美　さん**

**――今回応募しようと思ったきっかけについて教えてください。**

2 年次への進級とともに自分が本当に学びたい学問分野を探したいと考えたからです。大学生活の残り 3 年間で何を研究するのか、例えば芸術家の人生、思想や宗教観、教会などの建築物についてなど、興味のある分野は際限なく湧いてきます。いずれも文献中の説明や写真から学んだだけなので、実際の芸術作品や建築物に触れ、現地の図版などを読んで一番心躍るものを探そうと考えました。専攻したい分野として、ヨーロッパ史、キリスト教、ユダヤ教などの方向性は決めていたので、キリスト教の総本山であるバチカン、イタリアへ行こうとしていたところ、この奨学金を友人から教えてもらい、応募に至りました。

**――現地での活動はいかがでしたか。**

死についてのモティーフを鑑賞することが目的の一つでしたので、主にローマ、バチカン、フィレンツェ、ピサの教会や美術館を巡りました。7 日間の訪問の中で、羽の生えた髑髏や装飾が施された髑髏など、たくさん死のモティーフに接しました。一方、バチカンのサン・ピエトロ大聖堂だけ死のモティーフが少なく、代わりに、鳩のレリーフがたくさん柱に刻まれていたことが印象的でした。サン・ピエトロ大聖堂の建築年が、他の教会とはやや異なることに関連があるのかもしれないと思いました。

また、思いがけず素晴らしかったのは、ピサのカンポサントと呼ばれる納骨堂です。元々その存在を知らずにツアーで訪れたのですが、納骨堂の名の通り足元にはびっしりと墓標があり、その 4 分の 1 ほどに髑髏が刻まれています。また、フレスコ画には、他の教会ではあまり見かけなかった悪魔の姿がたくさん描かれていました。まさに中世の " 死 " の概念が詰まった建物です。しかし、羽が生えている髑髏は一つも見つからず、カンポサントについての疑問が深まりました。

こうして現地を訪問できたことで、知りたいこと、調査できそうなことが見つかり、今とてもやる気に満ち溢れています。

**――今後の学びの目標はできましたか。**

今後の学びの目標は、図像学そして天使と悪魔について学び、先の髑髏のモティーフや羽の有無の意味を理解することです。また、死の図像とペストの流行による人口激減は深い関連があると思っていましたが、図像が描かれたのはペスト流行以前であるということがわかったので、何故死の図像が流行ったかについても調査するため、中世ヨーロッパの通史を詳しく学び直し、理解を深めようと考えています。

**――発展協力会へのメッセージをお願いします。**

この度はご支援いただきありがとうございます。

大変なこともありましたが、それ以上に、とても楽しく、学びたいことを見極めるとともに、足りないものを認識し、文化の違いを体感することができ、素晴らしく充実した 7 日間でした。

この活動を礎とし精進していきたいと思いますので、今後も見守っていただければ幸いです。

ローマの教会で見つけた死のモティーフ「羽のある髑髏」。

**地球市民学科 2 年　菊池　風花　さん**

**――奨学金による活動を教えてください。**

私は絶対的貧困問題に興味があり、昨年度 2 回奨学金を頂き活動してきました。 1 回目は、夏期休暇中に訪れたルワンダでのファッションブランドの立ち上げです。雇用を生むために起業したいと思っていたため、スラムに住むテーラーを雇い、アフリカのカラフルな布でスカートやエプロンなどを作り日本で販売するブランドを立ち上げました。2 回目は、春期休暇中に訪れたインドにあるマザーテレサの施設でのボランティアです。貧困により路上で命が尽き果てそうになっている人々のお世話をする施設で、せめて最期は人に見守られながら幸せや愛を受け取ってほしいというモットーのもと活動しています。現地では、45 人程の入居者と会話をしながら、洗濯、食事補助、マッサージなど、自分がやるべきことを自ら考え活動をしました。

**――現地での活動を、今後どのように活かしていきたいですか。**

絶対的貧困と呼ばれる生活状況にいる人々と関わって思うことは、皆強く、美しく、愛に溢れているということです。生まれ持ったものは国籍、人種問わず同じはずなのに、生まれた場所が日本の一般家庭か、インドのスラム街か、というだけでその後の生き方が大きく変わります。その状況を少しでも良くするために必要なのは、安定した職につき、自分のことは自分でできる、明日に希望がある、という、自分自身や未来に自信や希望を持てることだと思います。これを実現するために、地域の経済を活性化し、雇用を生み出せるビジネスをしたいと考え、そのためには、世界の現状やより良い開発について学ぶだけではなく、経済や経営についても学びたいと思うようになりました。現地での活動を通して見えてきた将来のビジョン、それを実現するために今やるべきことを忘れず、これからも勉学や現地での活動に励んでいきます。

**――将来の夢や目標を教えてください。**

今までの活動を通して、人々を幸せにする活動を持続させていくためには、経営力を身につける必要があると考えています。将来のビジョンとして、活動資金を獲得するために、できれば在学中にビジネスを起こし、毎月安定して利益を得られるようにしたいと考えています。そこで得た資金を活用して、卒業後はアフリカなどに行き、雇用を生み現地の経済を活性化できるようなビジネスもしたいと思っています。これらのビジネスで安定的に利益を得て、インフラ整備や教育にも力を入れ、寄付金などに頼ることなく、自分たちで回していける持続可能な地域開発を行うことが目標です。

マザーテレサの施設の前にて。約 2 週間ボランティア活動を行いました。

試作品のエプロンが完成し、テーラーと記念撮影。約 40 着製作しました。

寄付金の目標額を 800 万円に設定し、皆様からいただくご寄付については、主に下記のとおり活用させていただきたいと思います。

| | |
|---|---|
| ① グローバル人材育成のための支援金 | 160 万円 |
| ② チャレンジ支援奨学金 | 140 万円 |
| ③ 学業奨励奨学金（成績優秀者表彰） | 100 万円 |
| ④ キャンパスキャスト等への支援 | 70 万円 |
| ⑤ ボランティア支援 | 30 万円 |
| ⑥ ラファエラ・アカデミア受講サポート | 20 万円 |
| ⑦ 発展協力会寄付講座 | 20 万円 |
| ⑧ 新型コロナウイルス感染防止のための オンライン授業導入に関する学生支援 | 100 万円 |

## 新型コロナウイルス感染症に関する学生への緊急支援について

大学では、新型コロナウイルス感染症対策として、前期授業科目については、教室での対面方式では行わず、すべてオンライン方式で実施することを決定しております。

こうした状況下において、オンライン授業における教育の質を保証するとともに、学生が安心して大学での勉学を続けることができるよう、経済的苦境を軽減することを目的として、学生・保護者の皆様のそれぞれの事情に応じた支援を行ってまいります。主に、①オンライン授業に用いるパソコンなどの機材や自宅のインターネット接続環境確保等に係る支援（約 3,700 万円）、②家計が急変した学生への特別奨学金の支給（約 5,100 万円）、③図書郵送貸出サービス（約 300 万円）などの支援を順次開始しております。

発展協力会では、新型コロナウイルス感染症に端を発する様々な危機に対する大学の取り組みに対して、経済的な側面からの支援を行うため、2020 年度使途予定として、急遽、「⑧新型コロナウイルス感染防止のためのオンライン授業導入に関する学生支援」を盛り込むことといたしました。さらに、寄付金額が支出実績を上回った場合は、通常、国際交流基金に充当しているところ、本年度については、新型コロナウイルス感染症に係る学生支援のための費用として充当させていただきます。

## ご支援のお願い

皆様からのご寄付は、従来から行っている学生支援や教育・研究活動の充実に向けた資金として活用させていただくとともに、本年度は、新型コロナウイルス感染症に係る学生支援のための貴重な資金としても有効に活用させていただきます。皆様におかれましても大変な状況であることは重々承知しておりますが、こうした状況下における喫緊の学生支援策でございますので、何卒ご賛同くださいますようお願い申し上げます。

お申込みは、①コンビニエンスストア、②ゆうちょ銀行・郵便局、③銀行振込、④インターネットなどの方法がご利用いただけます。

また、本学にご寄付いただいた場合には、税制上の優遇措置が受けられます。お手続きの詳細につきましては、本学公式 Web サイトをご覧ください。

【発展協力会公式 Web サイト】
https://www.seisen-u.ac.jp/support/hatten/hatten.php

右の QR コードより、クレジットカード決済を利用したインターネット寄付にアクセスいただけます。任意の金額を設定していただくこともできますので、ご活用いただけますと幸いです。

教職員一同、再び笑顔で学生の皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

# 2019 年度寄付金の使途

皆様からの温かいご支援により、2019 年度は 577 件、597 万 3,143 円のご寄付をいただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。これらの寄付金は、右記のとおり教育活動の支援等のために役立てさせていただきました。

①では、留学準備講座の受講料補助などを行いました。②では、正課外の多様な活動に対して支援を行いました。③では、3 年次生の成績優秀者に対して 10 万円ずつ授与しました。④では、オープンキャンパス運営補助や留学生支援などを行うキャンパスキャストに対して、謝礼の図書カードを配付しました。⑤では、各種ボランティア活動を行う学生に対する交通費補助を行いました。⑥では、在学生に対するラファエラ・アカデミアの受講料補助を行いました。⑦では、当会の寄付金を原資として 7 講座開講しました。

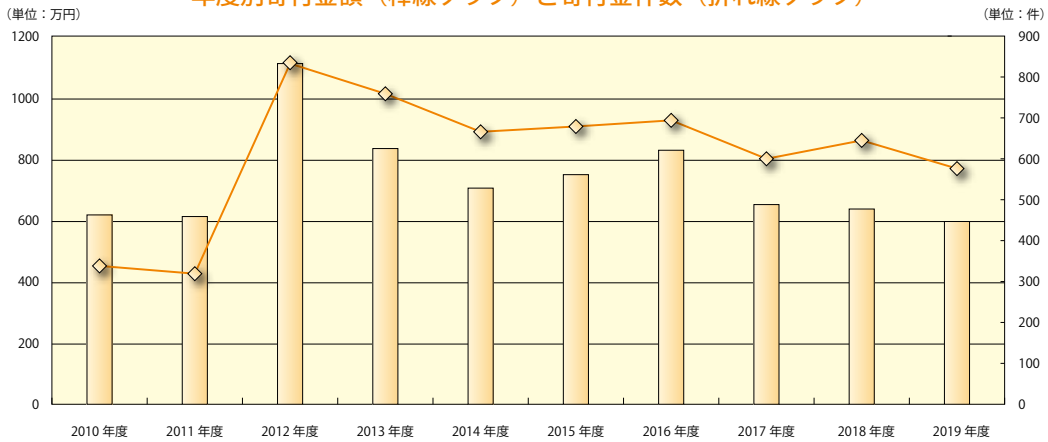
**〈2019 年度寄付金の使途〉**

| | |
|---|---|
| ① グローバル人材育成のための支援金 | 1,102,100 円 |
| ② チャレンジ支援奨学金（11 組 18 名） | 986,900 円 |
| ③ 学業奨励奨学金（10 名） | 1,000,000 円 |
| ④ キャンパスキャスト等への支援 | 1,200,000 円 |
| ⑤ ボランティア支援（19 名） | 285,000 円 |
| ⑥ ラファエラ・アカデミア受講サポート（35 講座 100 名） | 207,700 円 |
| ⑦ 発展協力会寄付講座（7 講座） | 183,756 円 |
| ⑧ 国際交流基金への組入れ | 1,007,687 円 |

## 発展協力会　2019 年度醵出金明細表

（2019 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日）

（単位：円）

| 個人会員 | | | | | | | | 法人会員 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （1）本学に在籍した者 | | （2）本学に在籍した者の父母及び家族 | | （3）本学現旧教職員 | | （4）一般の有志 | | | | | |
| 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 509 | 4,025,000 | 15 | 457,000 | 48 | 1,364,100 | 5 | 127,043 | 0 | 0 | 577 | 5,973,143 |

## 年度別寄付金額（棒線グラフ）と寄付金件数（折れ線グラフ）